

第 6 回 JANCOC 会議議事録 (V1.1)

日時 2000 年 1 月 15 日(土)12:00-12:45
場所 名古屋市立大学医学部研究棟 11 階 講義室 B
参加者 36 名
司会・進行 津谷喜一郎 (JANCOC 代表)
記録 八重ゆかり

JANCOC がスタートして約 5 年たったところで、一部 5 年間のまとめを含めて報告・討議された。

1. JANCOC-contact directory と JANCOC mailing list について

JANCOC-contact directory (カタカナでメンバーリストと称している。以後 J-CD と略) マスターファイル登録者と JANCOC mailing list (以後 J-ML と略)の現状について報告された。

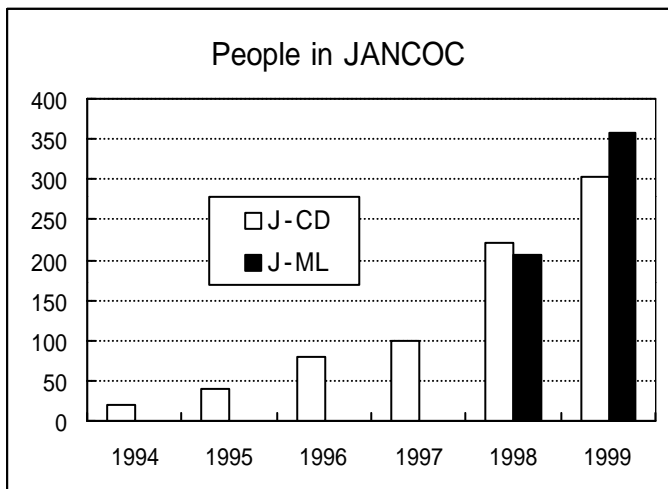
(1) 公開の経緯

- 1995 年 12 月 JANCOC Web site 開設(以後 Web と略)
- 1997 年 2 月 NiftyServe の FDRUG において J-CD (87 人)を公開
- 1998 年 3 月 Web に本人の同意をとった後、J-CD (77 人)を公開
- 1998 年 8 月 J-ML (announce と discussion)を開設

(2) J-CD と J-ML の参加者数の推移

year	J-CD	JANCOC 会議	
		J-ML	参加者
1994	20	0	13
1995	40	0	12
1996	80	0	26
1997	100	0	25
1998	222	205	20
1999	303	358	36

Fig. 1



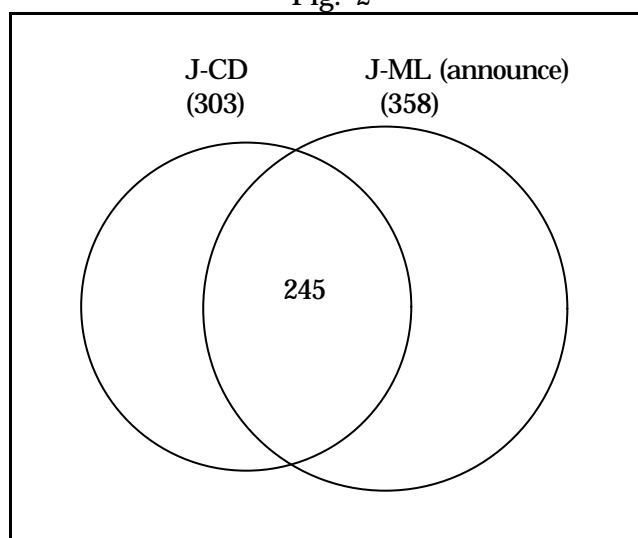
J-ML 開設以来、急激に参加者数が増え、従来の J-CD を上回っている。
(3)1999 年 12 月 26 日現在における J-CD での登録状況

J-CD マスターファイル登録者総数 303 人の内訳	
公開希望	258 人
非公開希望	16 人
公開範囲未確認	29 人

(4) J-CD 参加者と J-ML 参加者との関係

J-CD マスターファイル登録者総数 303 人と J-ML (announce) 登録者総数 358 人とに共通して含まれるのは 245 人である。つまり J-CD の 81%と J-ML の 68%が共通である。

Fig. 2



なお、1998 年 12 月時点と比較すると、J-CD マスターファイル登録者総数は 81 人、J-ML 登録者総数は 153 人増加している。

(5)現在のリストの一元化管理へ向けて

- 1) J-CD マスターファイル登録者 303 人のうち J-ML (announce) に入っていない人 58 人には郵送ないし fax で、JANCOC 会議やワークショップなどの案内を送らざるを得ないため、事務作業がひどく煩雑となっており、実際には対応しきれない。一方ではインターネットを用いない人はこの際無視してもよいという考えもあるが、これまでの一種の既得権があるためそれなりの対応が必要。そこで、これらの人々には J-ML (announce) に入るように強く勧誘する。入らない人は、別管理のリストをつくり、JANCOC の人的リソースも考慮して情報を一定期間(1 年)送り、その後中止する。
- 2) Web にある J-ML の入会案内に、関係者のお互いの連絡のために J-CD(Web 公開用)への記載をお願いする文面を入れる。
- 3) J-ML (announce) にあって、J-CD (Web 公開用) に入らない人 113 人には、J-CD(Web 公開用)への記載を弱く勧める。

2. 1999 年会計報告

1999 年 1 ~ 12 月 1 年間の収支決算が報告された。

1998 年からの繰越し金	161,366 円
1999 年収入合計	380,163 円
(内訳) 第 2 回システムティックレビューワークショップ参加費	290,000 円
第 3 回システムティックレビューワークショップ参加費	90,000 円
普通預金利子	163 円
1999 年支出合計	145,659 円
(内訳) 第 2 回システムティックレビューワークショップ経費	56,584 円
第 3 回システムティックレビューワークショップ経費	65,870 円
コクランリリーフレット 3000 部印刷代	23,205 円
1999 年残高合計	395,870 円

3. 組織体制

1997 年 12 月の第 4 回 JANCOC 会議で推薦承認されたものから変わってはいない。ただし、*に示すアドバイザーに異動があり後任に引継ぎを依頼中。

(1) 幹事

- ・名簿管理及び会計担当
八重ゆかり
- ・JANCOC ホームページ運営担当
福井直仁
- ・ワークショップ及びセミナー担当
(主)津谷喜一郎、(主)名郷直樹、(副)柳元和
- ・ハンドサーチ及び翻訳関係担当
(主)廣瀬美智代、(副)柳元和
- ・日本のレビューアのコーディネーション担当
柳元和

(2) アドバイザー 10 名 (50 音順)

岩尾聡一郎* (厚生省健康政策局 研究開発振興課長)

海老原格 (日本 RAD - AR 協議会)

折笠秀樹 (富山医科薬科大学)

楠 正 (日本薬剤疫学研究会)

清水直容 (帝京大学医学部名誉教授)

野島豊 (Japanese Association of Medical Doctors
in Drug Industries: JAMDI)

浜六郎 (Japan Institute of Pharmacovigilance: JIP)

久繁哲徳 (徳島大学医学部 公衆衛生学)

福井次矢 (京都大学医学部 総合診療部)

別府宏圀 (The Informed Prescriber: TIP)

4. JANCOC の過去の主な活動と今後の将来計画

(1) 啓発・教育活動

コクラン共同計画は EBM を知っている人に少なくとも名前だけは知られているが、内容はまだ十分には浸透していない。以下のような啓発・教育活動を行った。

< Input >

- 1) 紹介論文・リーフレットなど
 - ・リーフレット「コクラン共同計画」(桜色) 3,000 部
 - ・雑誌「薬の知識」50(8,9,10),1999 を合せた別冊:「コクラン共同計画とは何か？」500 部
- 2) 講演
- 3) 関連図書 of 出版
- 4) Contact directory の管理
- 5) Mailing list の運営・管理
- 6) Homepage の運営・管理

従来のサーバーに Y2K 問題が発生したのを機に、サーバーの homepage の移行を予定している。経費、必要書類、その他の機能などを考慮し、UMIN にする予定。無料。mailing list も可能、などのインフラがそろっている。

< Outcome >

- 1) 行政サイド: 厚生省健康政策局研究開発振興課管轄の「医療技術評価推進検討会」報告書(1999.3.23)などに「コクラン共同計画」がとりあげられるようになった。
- 2) 医療従事者サイド: 認識はある程度
- 3) Industry サイド: 認識なお低い
- 4) 消費者サイド: 認識なお低い

(2)コクラン共同計画の outcome である The Cochrane Library の使用の促進

- 1) 数え方の単位は多様だが日本では全体で約 500 set 使用されている。
 - ・南江堂からの CD-ROM が約 300 set。Internet 版も含む。
 - ・他に Update Software 社へ直接注文による購入、Ovid/ユサコの EBMR として使用 (Intranet と Internet 版) をあわせて約 200 set と推定される。

2) CDSR abstract の日本語訳作業

レビュー・アブストラクトの翻訳件数は世界では日本が最も多い。日本での多様なユーザーを考えると訳は必要。

Translation of CDSR abstract as of October 1999

French	9
German	60
Italian	30
Japanese	466
Portuguese	12
Russian	0
Spanish	25

レビュー・アブストラクトの新規と改訂のものについて、担当幹事の福井が差分の抽出とその印刷体と FD の作成、ボランティア翻訳者への振り分け、また郵送による翻訳依頼と回収などを行ってきた。対外的な交渉や訳語の統一のための調整作業などは廣瀬が担当してきた。新規レビュー数の増加とともに、レビューの様式変更による改訂版の急増で作業量が著しく増加してきた。

今後、CRG (1999 issue 4では 47 グループ)ごとの翻訳担当コーディネータボランティアを募集したいと考えている。その呼びかけを J-ML で行う予定であるので応募をお願いしたい。

(3)コクラン共同計画への feeding

< Input >

i) 発足以来過去5年間にJANCOCが主催/共催したワークショップ等

Systematic Review (SR) workshop	1995, 1999 × 2
Hand Search (HS) workshop	1996
EBM seminar	1997, 1998, 2000(予定)

ii) 1999 年に JANCOC が主催したワークショップ

1999.2.6 (土) 東京医科歯科大学

第 2 回システムティック・レビュー ワークショップ
でもわかるメタアナリシス

参加者 40 人

1999.9.18 (土) 名古屋大学

第 3 回システムティック・レビュー ワークショップ
コクランレビューのプロトコルの書き方

参加者 16 人

iii) 1999 年に JANCOC が共催/協力したワークショップ等

1999.3.23 (火)-25 (木) 東京・国際医療福祉総合研究所

EBM リサーチライブラリアンワークショップ

主催: 「EBMを支えるリサーチ・ライブラリアン養成についての調査研究」班

協力: JANCOC

1999.8.27 (金)-29 (日) 大津・大塚比叡山荘

第2回P-drug ワークショップ

主催: P-drug ネットワーク(P-NET-J)

後援: JANCOC

1999.10.2 (土)-3 (日) 大阪大学

第2回医薬ビジランスセミナー

主催: TIP、JIP

共催: JANCOC

< Outcome >

- i) The Cochrane Library の CDSR で、日本人が関与するシステムティックレビューは、1999 年 issue 4 でレビュー5、プロトコル4 の計9 つである。

- ii) Field、MWG、Consumer Network への関与などはそれぞれ数名
- iii) ハンドサーチ(HS)は 14 誌進行中である。

日本発行 handsearch 対象誌 (as of 31 December 1999)

Medline/Embase 収録誌

In Japanese (6)

感染症学雑誌
 癌と化学療法
 日本外科学会雑誌
 日本胸部疾患学会雑誌
 脳神経外科
 脳と神経

Medline/Embase 非収録誌

In Japanese (5)

呼吸と循環
 全日本鍼灸学会雑誌
 日本化学療法学会雑誌
 日本東洋医学雑誌
 臨床評価

In English (2)

Bulletin of Tokyo Med. And Dent. Univ.
 Japanese Journal of Cancer Research

In English (1)

Japanese Journal of Primary Care

- iv) DARE や META (Medical Editors Trial Amnesty) への関与
 現在なし。

<評価>

SR への日本人の関与は、これまでむしろ海外との直接のコンタクトで始まった例が多い。ただし、SR の基本を日本で教育する意味は将来への投資としてなお高い。

HS への日本人の関与は、「リサーチライブラリアン養成についての調査研究」がインパクトを持ち始めている。

(4)他の機関・プロジェクトなどとの関係

- 1) 医薬品・治療研究会 (The Informed Prescriber: TIP)
- 2) 医薬ビジランスセンター (Japan Institute of Pharmacovigilance: JIP)
- 3) 学会・研究会
 - ・ 第 14 回高度先進医療研究会 (1999.2.26)、第 19 回医療情報学連合大会 (1999.11.25)、第 20 回日本学術会議薬理研連シンポジウム (1999.12.2)、などにて紹介と討論
- 4) 行政
 - ・ 医療技術評価推進検討会 (1998.12.16) にてコクラン共同計画の紹介
- 5) 企業
 - ・ いくつかの企業で、コクラン共同計画、とくにパブリケーションバイアスの問題とその解決法について紹介。
- 6) 関連プロジェクト
 - ・ 医薬品の適応外使用に関するエビデンス
 (平成 9 年度 難治疾患・稀少疾患に対する医薬品の適応外使用のエビデンスに関する調査研究。平成 10 年度以後はヒューマンサイエンス (HS) 財団にひきつづき続行中)
 - ・ リサーチライブラリアン養成のための教育プログラム開発
 (平成 10 年度、11 年度厚生科学研究)
 - ・ 日本の RCT の CENTRAL への登録
 - ・ 科学技術振興事業団(Japan Science and Technology Corporation: JST)との協力関係

の樹立

他に関連するプロジェクトなどご存知の方おられたら連絡してください。

5. コクランセンター設立の件

コクラン共同計画の Web や The Cochrane Library などから収集した情報をもとに、以下が紹介された。

(1) The Cochrane Collaboration の機構

Steering Committee、Cochrane Center、Collaborative Review Group (CRG)、Field、Methods Working Group (MWG)、Consumer Network の関係と各役割

(2) 海外の各センターの、組織と業務、予算規模、管轄しているレビュー数など

(3) Cochrane Center は The Cochrane Collaboration の Steering Committee の承認が必要。このため日本コクランオフィス(JCO、仮称)などの前駆体をまず作る。

6. 参加者からの意見、質問等

1) 参加者からの意見

- ・ 今後活動の発展をはかるためには組織としての基盤を固める必要がある。また会員への情報提供を確実にするという点においては、これまでのホームページや ML のような電子媒体だけの情報交換では限界がある。もし JANCOC とは別に組織としてかっちりしたものをつくるならば、JANCOC がそれを生むための助産婦役を担うべきではないか。
- ・ 国内でコクランに関係した活動をした人々が集まって、年間活動報告を行う必要がある。ハンドサーチ、レビューアブストラクトの翻訳は、今後作業量が増加していくことが予想されるので、人材の確保や作業の進め方についてよく検討していかなければならないだろう。また、日本でシステムティックレビューに関わったレビューアが集まって、国内でのレビューがどのように進行しているかを話し合う機会を作ることも必要である。
- ・ 日本コクランセンター (JCC) または日本コクランオフィス(JCO)のようなかっちりした組織、またその前身としての NPO を設立する手続きにおいてはコクラン共同計画の基本である民主性と透明性を大切にしてほしい。そのためには JANCOC 全体会議のようなものを、十分な時間をとり、かつなるべく早い時期に実現してほしい。

2) 確認事項

- ・ 会計報告に関連して、会費制の導入と会報誌発行予定の有無について質問があり、いずれも予定していないことを津谷代表が答えた。
- ・ 雑誌「薬の知識」別冊: 「コクラン共同計画とは何か?」の中にコクランライブラリの使い方が掲載されているが、これをホームページに載せたらよいのではないかとの意見が出され、著作権についてライフサイエンス出版との交渉を検討することとなった。

- ・ JCC または JCO のような組織を作るための原案づくりを考えているかという質問に対しては、1 つのオプションとして NPO の設立を考えており、その定款と設立趣意書の案を準備中である旨、津谷代表が答えた。
- ・ 将来 JCC に移行することを目指した NPO の定款と設立趣意書作成という任務は、現在の JANCOC 幹事の任務としては規定されていないのではないかとの問いに関して、規定なるものはもともとないのであるから、そうであると津谷代表が答えた。
- ・ JANCOC の組織形態のあり方が不明という質問に対して、お互いに顔の見合った人同士のゆるやかな人的つながりから、mailing list を中心とした情報のネットワークに移行しつつあると考えており、将来できる JCC/JCO とは別の存在であろうと津谷代表が答えた。
- ・ そのような NPO 設立準備にあたっては、JANCOC メンバーおよびアドバイザー、コクラン共同計画に関わってきた日本人レビューア、EBM セミナーに関わって来た人々などに設立準備への参加を呼びかけるべきではないかとの意見が出されたため、2000 年中に開催される次回 JANCOC 会議において議論することとなった。

以上